

## 愚直の一念

校長 相馬 美智枝

9月から明德小学校の名物?「カメムシ」の研究に取り組んでいます。体育館のモップ掛けをしながら、仮説を立て、様々な実験を試みっていますが、カメムシの数は一向に減る様子が見られません。暖房を使う時期にはさらに数が増えると聞いて覚悟していましたが、10月17日にはそれまでの記録を大幅に更新し、24日にはさらに記録を上回りました。「これまで何をやっても駄目だった」「時間をかけても成果が上がらない」「費用対効果は?」……などの冷静な声に耳を傾けながらも、「少しでも効果がある方法が分かれば、学校生活が快適になるのは間違いない」との思いから、研究は現在も継続中です。

自分自身が納得できるまでやめられない頑固な性格は、「我ながら本当に面倒だ」と思います。成果がなかなか出ないので自己肯定感も下がり気味ですが、そんな時に心の片隅を照らしてくれる言葉があります。以前お仕えした校長先生が下さった「愚直の一念」という言葉です。このような私の性格を長所として認め、本を紹介してくださいました。

渡辺淳一氏の随筆「公園通りの午後」の中に、「愚直の一念」と題された文があります。渡辺氏は元札幌医大外科講師で、直木賞作家です。これは医学生時代に教授から聞いた話です。

大正の初めごろ、東大内科に呉という新米医師が入ってきた。呉医師は、さほど頭の切れるタイプではなく、目立つ存在ではなかった。入局して5・6年経つと、教授が医局員を一人ずつ呼び研究課題を与えられるが、呉医師には一向にお呼びがかからない。呉医師は、自分が鈍才で、他人より遅れることは覚悟していたが、何とか自分の研究をしたいと考え、教授にテーマをいただけないと頼んだ。教授はしばらく考えて、「ヘルツ」(心臓)と一言だけ言った。が、具体的なことは一切指示してくれない。話を聞いた先輩達は、それは無理だから止めた方がいいと忠告した。当時「心臓」の研究は迷路とされており、それに組み込むと容易には抜け出せないと信じられていたからである。だが、その頃の教授は絶対の権力者で、一度もらったテーマを返すわけにもいかない。呉医師は、文献を集めてこつこつと心臓の勉強を始めた。仲間達は次々と論文を完成し、みんなの同情と、呆れた視線の中で、呉医師は仕事を続けた。それは愚直の一念とも言うべきものだった。十数年後、彼は心臓と関係のある自律神経のメカニズムを発見し解明した。それは近代内科学に自律神経の意義を認識させた、輝かしい業績であった。

渡辺氏の恩師は、「人間は、頭が良ければいいというわけでもない。秀才は、頭が良すぎるために、先が見えずぎて、足元の偉大な鉾脈を見逃してしまうことがある。呉さんは、なまじっか秀才でなかったために、他に目移りせず、足元を丹念に掘り起こすことができた。」さらに「鈍才は、もちろん弱点があるが、秀才にも秀才なりの弱点がある。」「人間には、やはり「愚直の一念」ということが大切です。たとえ愚かでも、脇見をせず真直ぐ進む。そうすれば、なまじっかな秀才より大きな仕事ができる。わたしは、そう信じてこれまでやって来たし、これからもやって行くつもりです。」と話し、渡辺氏は「ずいぶん救われた気持ちになった」と結んでいます。

この本を読み、不器用な自分の考え方・生き方が肯定されたような気持ちになりました。35年余りの教職生活を振り返ると「愚直の一念」で、微力ながらも努力が報われた場面がたくさんあったと思えることを、幸せに思います。人からいただく評価もうれしいけれど、自分自身が納得できるレベルに達した、自分の気がすむまで精一杯できた、という自分の中の充足感・満足感が一番だと感じています。

子どもたちが生きていく未来は変化が激しく、先行き不透明とも言われますが、努力を積み重ね、夢や目標に向かい一歩ずつ歩を進められるよう、全校体制で見守っていきます。

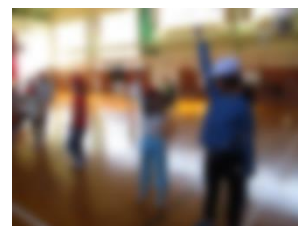
# 9・10月の学校日記

## 《学習発表会に向けて》

11月12日(土)の学習発表会に向けて、テーマも決まり、子どもたちは一生懸命練習に取り組んでいます。今年も、低・中・高学年がそれぞれに発表したり、全校でよさこいを踊ったりします。

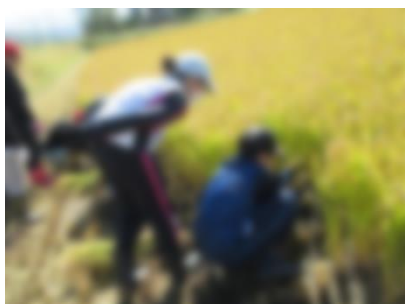
今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、観客の制限をさせていただくこととしました。

観覧を予定されていた地域の皆様方には大変申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



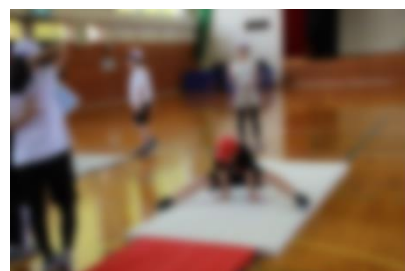
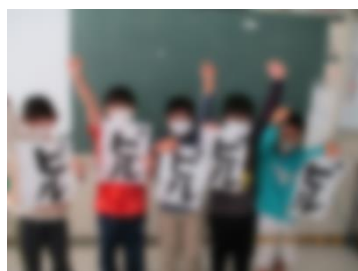
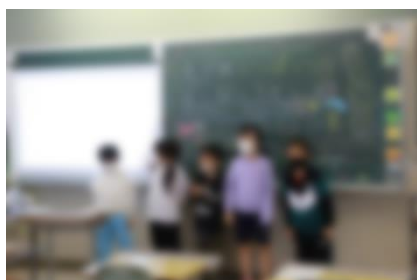
## 《あぐりスクール稲刈り体験》

9月26日(月)に、JA青年部さんのご協力をいただき、あぐりスクールの稲刈り体験を行いました。5月の田植え作業を行ってから約4ヶ月。立派に稲が実り、収穫の時期を迎え、晴天のもと稲刈りを体験することができました。現在は、ほとんどがコンバインでの収穫作業ですが、今回は、昔ながらの収穫方法で、実際に「かま」を使い稲刈りをしました。「かま」を使う経験も少なく、多少ぎこちない印象の子どもたちでしたが、稲刈り作業の大変さを実感し、先人の苦勞を認識し、感謝の念を抱くことができたのではないのでしょうか。



## 《全校参観日》

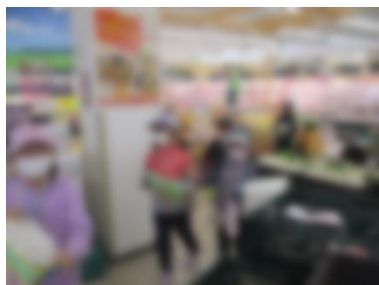
10月12日(水)に全校参観日がありました。いつもたくさんのご参観ありがとうございます。1・2年生は「生活科」、3年生は「書写」、5・6年生は「体育」の授業を見ていただきました。真剣に授業に取り組む姿をご覧いただけたと思います。授業参観後の全体懇談へのご参加も感謝申し上げます。全体懇談では、各学級の様子や学習発表会について説明させていただきました。今後どうぞよろしくお願いいたします。



## 《社会見学》

9月16日（金）に1～3年生の社会見学を行いました。今回の社会見学は、美瑛町の環境や働いている人々の様子を知ったり、買い物体験を通して仕事に携わっている人々の工夫を考えたりすることをねらいとして実施しました。初めの見学先は「ふじスーパー」でした。ここでは、ふだん買い物をしているお店の中だけではなく、バックヤードも見学することができました。事務所でポップを作っていたり、大きな冷凍庫があったりと、子どもたちは興味津々な様子でした。次に「消防署」を見学させていただきました。普段入ることのない通信指令室や救急車・消防車の中を見たり防護服を着させてもらったりしました。お昼には「四季彩の丘」に移動してお弁当を食べたあと、トラクターバスに乗ってきれいな丘を見たり、買い物体験をしたりしました。最後は「ファームズ千代田」に行き、動物の命の大切さについてお話を聞きました。実際にえさをあげたり、うさぎを触ったりすることもでき、子どもたちも大喜びでした。

この社会見学を通して、子ども達は多くのことを学習することができました。この社会見学を通して学んだことを生かし、今後の学習や生活に役立てていきます。



## 《児童会役員選挙》

9月20日（火）に、後期児童会役員選挙が行われました。立候補者は、自分の考えている取組や活動を公約として、力強い演説で全校に訴えかけていました。演説後は投票と開票作業をおこない、3名が見事当選しました。

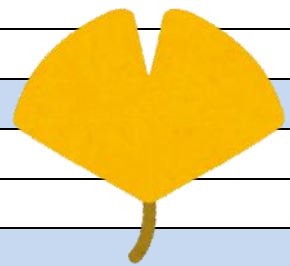
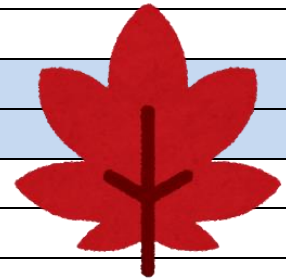
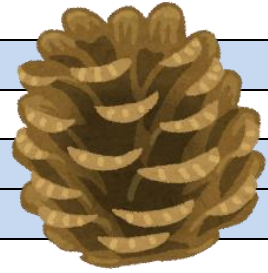
明德小学校の代表として、今よりも、さらにすばらしい学校になるように、全校で協力しながらがんばって取り組んでほしいと思います。





# 行事予定

日	曜	行	事
1	火	全校朝会	安全点検日
2	水	学習発表会係活動①	
3	木	文化の日	
4	金	児童会⑩	コーディネーター会議
5	土		
6	日		
7	月		
8	火	学習発表会係活動②	上へき複教育実践発表会
9	水		
10	木		
11	金	学習発表会前日準備	
12	土	学習発表会	長寿を祝う会
13	日		
14	月	振替休業	
15	火	職員会議 1 1	後片付け
16	水	教育相談週間（～18日）	中村天平さんコンサート
17	木		
18	金	美瑛町教育研究大会	（午前授業）
19	土		
20	日		
21	月	校内支援委員会	
22	火	交流学习（低学年）	
23	水	勤労感謝の日	
24	木	交流学习（中学年）	研修 1 3
25	金	交流学习（高学年）	クラブ⑥
26	土		
27	日		
28	月	美瑛町児童生徒作品展	展示作業
29	火	全校参観日	防犯教室 美瑛町児童生徒作品展（～12/11）
30	水		



## 《長寿を祝う会のお知らせ》

学校だより9月号でお知らせしたとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も会食や余興は行わず、学習発表会を観覧していただいた後、式のみを行い、記念品を贈呈いたします。「長寿を祝う会」は地域の発展に多大な貢献をされた皆様の労をねぎらい感謝を表す会ですので、会食や余興ができないことは非常に残念ですが、どうか趣旨をご理解いただき、今後ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。